

科目名	障害児教育学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	永野 淳子		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	小児施設にて心理担当職員として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	言語聴覚障害および言語聴覚障害臨床について、学習するうえで基礎となる教育に関する知識・技能・態度を習得する						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				教育の基本概念とシステムについて説明できる	
	○	○		○		障害を持ちながら成長するとはどういうことか、それぞれの障害特性との関係を説明できる	
	○	○		○		環境の子どもの育ちや発達への影響や障害との相互作用について説明できる	
	○	○		○		障害を持ちながらの成長を支援するうえで必要なことを障害特性との関係から説明できる	
	○	○				障害を持ちながら成長する過程での教育の役割を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	教育の基本概念・今、日本の教育が目指すもの					
	2	障害を持って生きるとは？					
	3	障害児教育(特別支援教育)の概念					
	4	障害児教育各論① 障害を理解する:視覚障害を通して					
	5	障害児教育各論② 視覚障害の特徴と発達への影響					
	6	障害児教育各論③ 心の発達と障害:聴覚障害を通して					
	7	障害児教育各論④ 病弱					
	8	障害児教育各論⑤ 病弱:家族との関係・病から学ぶこと					
	9	障害児教育各論⑥ 肢体不自由					
	10	障害児教育各論⑦ 知的障害:教育の現場から					
	11	障害児教育各論⑧ 知的障害:教育の役割					
	12	特別支援教育のシステム:特別支援学校・通常学校のしくみ					
	13	特別支援教育のシステム:学校を支える・つなげるしくみ					
	14	昨今の子どもをめぐる問題① 貧困が発達に与える影響					
	15	昨今の子どもをめぐる問題② 不登校					
評価方法	(1)小レポートを数回実施する。(2)最終課題レポート(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	○	○		○		100%
	発表・作品						
履修上の注意	障害・子ども・教育・医療などに関する世の中の動きに様々な(信頼できる)メディアを通して触れる機会を持ち、情報を得たり自分の考えを深めたりすることに努めること。						

科目名	医学論文						
科目名(英)	medical papers						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	学科教員		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	施設にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学論文の検索に慣れ、スムーズに検索システムを活用することができるようになる。</li> <li>・日々の学習において理解を深めるために医学論文を活用できるようになることを目標とする。</li> </ul>						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				医学論文検索システムを活用することができる	
	○	○				論文中の必要な情報を読みとることができる	
	○	○		○		論文の内容を適切に解釈し、要約したものを発表できる	
テキスト・教材 参考図書	配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業の説明・論文検索システム			講義内容を参考に、論文検索サイトから1本任意の医学論文をダウンロードする。(30分)		
	2	論文を読むことが大切な理由			教科書に紹介してある参考文献、引用文献を検索し、閲覧する。(30分)		
	3	重要な論文を手取り早く探す方法			興味のある分野・科目について論文検索を行い、気に入った論文を5本ダウンロードする。(30分)		
	4	優れた論文が掲載されている雑誌を手にとってみよう(図書室の利用)			図書室から1冊、任意の学会誌を借りて読む。(60分)		
	5	論文の読み方と要約のポイント、論文抄読会の説明			次回の論文(高次脳機能障害)1本の選択と印刷(60分)		
	6	医学論文:失語症、高次脳機能障害 資料作り			抄読会の準備(運営等)(60分)		
	7	医学論文:失語症、高次脳機能障害 論文抄読会			次回の論文(運動障害性構音障害、嚥下障害、音声障害)1本の選択と印刷(60分)		
	8	医学論文:運動障害性構音障害、嚥下障害、音声障害 資料作り			抄読会の準備(運営等)(60分)		
	9	医学論文:運動障害性構音障害、嚥下障害、音声障害 論文抄読会			次回の論文(聴覚障害)1本の選択と印刷(60分)		
	10	医学論文:聴覚障害 資料作り			抄読会の準備(運営等)(60分)		
	11	医学論文:聴覚障害 論文抄読会			次回の論文(小児、吃音)1本の選択と印刷(60分)		
	12	医学論文:小児、吃音 資料作り			抄読会の準備(運営等)(60分)		
	13	医学論文:小児、吃音 論文抄読会			個人論文抄読会に向けた発表準備(90分)		
	14	論文抄読会(個人)			分野ごとに資料をまとめ、整理する。(30分)		
15	論文抄読会(個人)						
評価方法	(1)第1～5回までの宿題の実施状況を評価する。(2)第6～13回までの資料の質を評価対象とする。(3)第6～13回までの抄読会での態度を評価対象とする。(4)第14, 15回の論文抄読会(個別)にて個別評価する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	宿題・レポート	○	○				20%
発表・作品	○	○		○		80%	
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6～13回はグループワーク、班発表とし、編成は教員が行い授業内で告知する。</li> <li>・第14, 15回の論文抄読会(個人)では、それまでの講義内で班発表した論文ならびに他者と重複する論文は不可とする。</li> <li>・個人発表用の論文登録は、受付を開始した時点より原則先着順とし、専用のExcelフォームへ入力することで登録完了とする。</li> </ul>						

科目名	医学総論						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	大久保史子・今村亜子 ・安藤廣美		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	医療従事者の一員として医学の歴史を学び、医学の成り立ちについて理解することを目指す。リハビリテーションにおける全人的尊重の理念を理解するために、ICFや死について理解を深め、個別な対応の必要性を認識することを目指す						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					医学の歴史を知り、成り立ちについて概要を説明できる	
		○				全人的なアプローチの基礎を築くためにICFの理念について説明できる	
		○				死ぬということについて学び、死にゆく人に対する配慮をイメージし説明できる	
		○				支援者・家族の立場を理解し、サポートすることの必要性を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	・ 医学書院 学生のための医療概論 第4版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	医学概論				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	2	医学概論				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	3	医療は誰のものか①(患者の権利)				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	4	医療は誰のものか②(医の倫理)				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	5	医療は誰のものか③(情報共有とチーム医療)				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	6	医療がたどってきた道と未来への展望①(感染症対策)				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	7	医療がたどってきた道と未来への展望②(生活習慣病の予防)				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	8	医療がたどってきた道と未来への展望③(最近の話題)				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	9	多様な健康観と医療観				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	10	健康の決定要因とヘルスプロモーション				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	11	国際生活機能分類とリハビリテーション				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	12	命のケア				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	13	well beingを高める支援				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	14	保健医療が追及する価値と医療者の役割				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
15	まとめ				教科書と配布プリントをもとに復習を行う		
評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				10%
	宿題・レポート	○	◎				10%
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	内科学(老年医学含む)						
科目名(英)	Internal Medicine I						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	眞崎 義憲		
実施年度	2023	実施時期	前期	担当者実務経験	大学病院にて医師として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語聴覚療法実施に置いて不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。</li> <li>・言語聴覚療法に関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。</li> <li>・内科疾患の成り立ちを知ること、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。</li> <li>・内科疾患の症状を理解することで、言語聴覚療法治療上でのリスク管理を理解する。</li> </ul>						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				内科疾患の現状を説明できる	
	○	○				内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				言語聴覚士がかかわる内科疾患の治療実践を説明できる。	
	○	○				言語聴覚療法の中で内科疾患治療の必要性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	内科学を学ぶ意義			教科書で予習しておく。		
	2	循環器疾患			まとめプリントを使用して復習しておく。 教科書で予習しておく。		
	3	腎・泌尿器疾患			まとめプリントを使用して復習しておく。 内部障がいも併せて予習・復習しておく。		
	4	呼吸器疾患			まとめプリントを使用して復習しておく。 内部障がいも併せて予習・復習しておく。		
	5	消化器疾患			まとめプリントを使用して復習しておく。 内部障がいも併せて予習・復習しておく。		
	6	肝胆膵疾患			まとめプリントを使用して復習しておく。 内部障がいも併せて予習・復習しておく。		
	7	環境要因・中毒			まとめプリントを使用して復習しておく。 内部障がいも併せて予習・復習しておく。		
	8	代謝性疾患			まとめプリントを使用して復習しておく。 内部障がいも併せて予習・復習しておく。		
	9	内分泌疾患			まとめプリントを使用して復習しておく。 内部障がいも併せて予習・復習しておく。		
	10	血液疾患			まとめプリントを使用して復習しておく。 内部障がいも併せて予習・復習しておく。		
	11	血液疾患			まとめプリントを使用して復習しておく。 内部障がいも併せて予習・復習しておく。		
	12	自己免疫疾患			まとめプリントを使用して復習しておく。 内部障がいも併せて予習・復習しておく。		
	13	感染症			まとめプリントを使用して復習しておく。 内部障がいも併せて予習・復習しておく。		
	14	復習			まとめプリントを使用して復習しておく。 内部障がいも併せて予習・復習しておく。		
	15	まとめ					
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	リハビリテーション医学 / 一般臨床医学									
科目名(英)	Rehabilitation medicine / general clinical medicine									
単位数	1	時間数	30時間	担当者	飯塚病院医療スタッフ					
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	各専門職として病院に勤務					
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年									
授業概要	リハビリテーション医療の役割について理解し、その構造を把握する。 また、リハビリテーション医学における関係職種の役割について把握し、チームアプローチの重要性を理解する。									
授業形態	講義:	<input type="radio"/>	演習:	<input type="checkbox"/>	実習:	<input type="checkbox"/>	実技:	<input type="checkbox"/>	※ 主たる形態: <input type="radio"/> その他: <input type="triangle"/>	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	リハビリテーションの歴史について説明できる。				
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	リハビリテーションの理念と対象について分類でき説明できる。				
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	リハビリテーション関係職種の役割について把握し説明できる。				
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	救命医学の基本概念が説明できる。				
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	基本的救命措置が実施できる。					
テキスト・教材 参考図書	なし									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	リハビリテーション医学の成り立ち				授業資料を基に復習する				
	2	リハビリテーションの理念と対象				授業資料を基に復習する				
	3	診断と評価 各種疾患の臨床 1				授業資料を基に復習する				
	4	診断と評価 各種疾患の臨床 2				授業資料を基に復習する				
	5	リハビリテーション医学とリハビリテーションの全体像				授業資料を基に復習する				
	6	リハビリテーションチームについて				授業資料を基に復習する				
	7	各種アプローチについて 看護学				授業資料を基に復習する				
	8	各種アプローチについて 社会福祉学				授業資料を基に復習する				
	9	各種アプローチについて PT概論				授業資料を基に復習する				
	10	各種アプローチについて OT概論				授業資料を基に復習する				
	11	各種アプローチについて 介護福祉士の仕事				授業資料を基に復習する				
	12	各種アプローチについて 歯科衛生士とSTとのかかわり				授業資料を基に復習する				
	13	各種アプローチについて 栄養士とSTとのかかわり				授業資料を基に復習する				
	14	障がい者当事者講義				授業資料を基に復習する				
15	まとめ				授業資料を基に復習する					
評価方法	以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験									
	小テスト	◎	◎				30%			
	宿題・レポート		○		○		60%			
発表・作品				◎		10%				
履修上の注意	まとめ課題レポートあり。									

科目名	臨床心理学						
科目名(英)	Clinical psychology						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	富永 明子		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	臨床心理学の基礎理論を学ぶことを通して、人のこころのしくみ、およびこころの問題について理解する。さらに、代表的な心理アセスメント、心理療法について学習し、臨床心理学 的な支援の具体的方法について知り、理解する。実践的プログラムを通して理解を深める。また、卒業後の現場において臨床心理学を活かしていけるために、他者とのかわり や自分自身についての思考・感情・言動をふりかえり、理解する視点をもつ機会とする。						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人格、発達理論を列挙できる。また、それぞれについて概説できる。	
	○	○				心理アセスメント、心理療法を列挙できる。また、それぞれについて概説できる。	
		○				臨床心理の基礎的な技法について実践することができる。	
		○		○		ワークを通して自己認識を深め、他者視点について考え態度に反映することができる。	
			○	○		他者とのかわりや自分自身について振り返り、理解する視点を持つことができる。	
テキスト・教材 参考図書	「心とかわる臨床心理」基礎・実際・方法」川瀬正裕・松本真理子・松本英夫著 ナカニシヤ出版 「はじめて学ぶ人の臨床心理学」杉原一昭監修 中央法規出版 参考文献:「自己主張トレーニング」ロバート・E・アルベルティ、マイケル・L・エモンズ(著)東京図書						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業の概要、臨床心理学とは何か			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく		
	2	人格理論① 精神分析理論、防衛機制			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく		
	3	人格理論② 分析的心理学、自己理論			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく		
	4	発達理論① 分離-個体化理論、対象関係論			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく		
	5	発達理論② 心理・社会的発達理論 理論のまとめ			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく		
	6	心理アセスメント① 情報収集と整理、発達検査、知能検査			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく		
	7	心理アセスメント②人格検査 心理検査の実際-質問紙法、投影法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく		
	8	心理療法① 基本的態度、クライエント中心療法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく		
	9	心理療法② 精神分析療法、分析的心理学療法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく		
	10	心理療法③ 遊戯療法、芸術療法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく		
	11	心理療法の実際①-芸術療法(コラージュ)			教科書をもとに予習し、授業内容を振り返って復習する。		
	12	心理療法③ 森田療法、家族療法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく		
	13	心理療法④ 行動療法、認知行動療法、自律訓練法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく		
	14	心理療法⑤集団心理療法 心理療法の実際②-カウンセリング			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習し、プリントを作成しておく		
15	心理療法のまとめ 授業のふりかえり			授業全体をふりかえり、理解を深めたいところや質問についてまとめておく			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎		○	○	100%
履修上の注意							

科目名	学習認知心理学の理論						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	大森 晶子		
実施年度	2023	実施時期	前期	担当者実務経験	施設にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	高次脳などに深くかかわる人の認知を理解する						
授業形態	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				記憶メカニズムについて概説することができる	
	○	○				条件づけについて概説することができる	
	○	○				教科および消去について概説することができる	
	○	○				社会的学習について概説することができる	
	○	○				記憶・学習について概説することができる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:サイエンス社 学習の心理 行動のメカニズムを探る						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	記憶メカニズム				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する	
	2	記憶の種類とテスト				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する	
	3	エピソード記憶とメタ記憶				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する	
	4	忘却				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する	
	5	古典的条件付け				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する	
	6	古典的条件付け				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する	
	7	味覚嫌悪・高次条件付け				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する	
	8	テスト				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する	
	9	オペラント条件付け(オペラントメカニズム)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する	
	10	三項随伴性・強化メカニズム				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する	
	11	正負の強化				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する	
	12	消去のスケジュール				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する	
	13	社会的学習(観察・学習)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する	
	14	社会的学習(模倣学習・問題解決)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する	
	15	まとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する	
評価方法	(1)課題を数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)小テストを実施する。 以上を下記の支店・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				50%
	課題	○	◎				10%
	小テスト						40%
履修上の注意							

科目名	失語症の理解						
科目名(英)	Learning of Aphasia						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	高津原 直樹		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院で言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な失語症についての定義、知識を習得する。</li> <li>・失語症古典的分類におけるそれぞれの特徴を把握し、鑑別する。</li> <li>・言語症状を認知神経心理学的モデルにあてはめて考え、それぞれの発現機序を説明する。</li> </ul>						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				失語症の定義について説明することができる。	
	○	○				病巣と症状から失語症の古典的タイプ分類ができる。	
	○	○				失語症状と近縁症状との鑑別ができる。	
	○	○				失語症の各タイプの代表的な特徴を、何も見ずに列挙できる。	
			○			計画的に学習を進めることができる。	
テキスト・教材 参考図書	小嶋 知幸著 なるほど失語症の評価と治療 新興医学出版社 SLTA 標準失語症検査 マニュアル 藤田 郁代著 失語症学第3版 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	失語症の定義 原因疾患、責任病巣			Formsで繰り返し課題を実施(30分) 復習用動画視聴(60分)		
	2	失語症の症状(聴く) 認知神経心理学的モデルの活用			Formsで繰り返し課題を実施(30分) 復習用動画視聴(60分)		
	3	失語症の症状(話す)Ⅰ 認知神経心理学的モデルの活用			Formsで繰り返し課題を実施(30分) 復習用動画視聴(60分)		
	4	失語症の症状(話す)Ⅱ 認知神経心理学的モデルの活用			Formsで繰り返し課題を実施(30分) 復習用動画視聴(60分)		
	5	失語症の症状(読む) 認知神経心理学的モデルの活用			Formsで繰り返し課題を実施(30分) 復習用動画視聴(60分)		
	6	失語症の症状(書く) 認知神経心理学的モデルの活用			Formsで繰り返し課題を実施(30分) 復習用動画視聴(60分)		
	7	単元試験Ⅰ(第1~6回までの範囲)			12/20点未満者は再試験のための復習(60分以上) 12点以上はこれまでの総復習(60分以上)		
	8	古典的分類:ブローカ失語、ウェルニッケ失語			Formsで繰り返し課題を実施(30分) 復習用動画視聴(60分)		
	9	古典的分類:伝導失語、失名辞失語、全失語			Formsで繰り返し課題を実施(30分) 復習用動画視聴(60分)		
	10	古典的分類:超皮質性失語(運動性、感覚性、混合性)			Formsで繰り返し課題を実施(30分) 復習用動画視聴(60分)		
	11	単元試験Ⅱ(第8~10回までの範囲)			Formsで繰り返し課題を実施(30分) 復習用動画視聴(60分)		
	12	その他の失語症候群: 語義失語、皮質下性失語、原発性進行性失語			Formsで繰り返し課題を実施(30分) 復習用動画視聴(60分)		
	13	純粋型①:純粋語聾、純粋発語失行、純粋失読			Formsで繰り返し課題を実施(30分) 復習用動画視聴(60分)		
	14	純粋型②:純粋失書、失読失書			Formsで繰り返し課題を実施(30分) 復習用動画視聴(60分)		
15	後天性小児失語症			12/20点未満者は再試験のための復習(60分以上) 12点以上はこれまでの総復習(60分以上)			
評価方法	(1)授業の中で単元テストを2回実施する。(2)宿題を13回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				40%
	単元テスト	○	○				40%
	小テスト	○	○				10%
	宿題・レポート	○	○		○		10%
履修上の注意							

科目名	高次脳機能障害の理解						
科目名(英)	Learning of higher brain dysfunction						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	井上 聖子		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	言語聴覚士として病院に勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主な高次脳機能障害の種類、特徴、責任病巣について理解し、国家試験過去問題を解くことができる。</li> <li>・各高次脳機能障害評価の目的を理解し、患者役に説明できる。</li> <li>・各高次脳機能障害評価を手順通りに実施できる。</li> </ul>						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				高次脳機能障害の検査について説明できる。	
	○	○				国家試験問題を解くことができる。	
	○	○	○			実技テストにて、正しく検査が遂行できる。	
テキスト・教材 参考図書	白波瀬元道 ST評価ポケット手帳 ヒューマン・プレス 藤田 郁代 標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1年次の復習;高次脳機能障害の種類 高次脳機能障害の評価と鑑別診断				授業内容を復習する(30分)	
	2	構成能力:コース立方体組み合わせテスト(KOHS)				授業内容を復習する(30分)	
	3	知的機能:レーブン色彩マトリシス検査(RCPM)				授業内容を復習する(30分)	
	4	認知機能・見当識;改訂 長谷川式簡易知能評価スケール (HDS-R)				授業内容を復習する(30分)	
	5	その他の簡易的な高次脳機能障害評価 MMSE-J、COGNISTAT 認知機能検査、MoCA-J軽度認知障害スクリーニング等				授業内容を復習する(30分)	
	6	短期記憶:S-PA(≠三宅式記憶検査)、ベントン視覚記憶力検査(BVRT)				授業内容を復習する(30分)	
	7	総合的記憶:記憶機能検査(WMS-R)				授業内容を復習する(30分)	
	8	日常的記憶:リバーミード行動記憶検査(RBMT)				実技テストのための検査練習をする(60分以上)	
	9	実技テスト(KOHS、RCPM、HDS-R、MMSE-J)				第1~8回までの授業内容を復習しておく(60分以上)	
	10	実技テスト(KOHS、RCPM、HDS-R、MMSE-J)					
	11	注意機能:日本版トレイル・メイキング・テスト(TMT-J) 前頭葉機能:前頭葉機能検査(FAB)				授業内容を復習する(30分)	
	12	WAIS-III 概論				授業内容を復習する(30分)	
	13	WAIS-III 各論				授業内容を復習する(30分)	
	14	WAIS-III 結果のまとめ、WAIS-IVとの差異				授業内容を復習する(30分)	
15	国家試験問題、まとめ				前期の授業内容を復習しておく(120分以上)		
評価方法	(1)小テストを実施(第9、10回以外)(2)定期試験(筆記実技)(3)実技テスト1回を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				60%
	小テスト・レポート	○	○				20%
	実技テスト	○	○	○			20%
履修上の注意							

科目名	知的障害の展開						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	45時間	担当者	三田 智巳・永江 信吾		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	施設にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	知的障害児に対する言語聴覚療法の評価診断、および言語治療(指導・支援)に関する知識、技能、態度を習得する。						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				知的障害児に対する言語治療における言語聴覚士の役割を説明できる	
	○	○	○			言語聴覚療法の評価診断の基本概念と方法を説明し、模擬的に実施でき、レポートが作成できる	
テキスト・教材 参考図書	藤田郁代/編 標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第2版(医学書院)2017年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	知的障害児の評価診断とは			30分程度の予習・復習を行う		
	2	知的障害児の言語治療(指導・支援)とは			30分程度の予習・復習を行う		
	3	評価診断(評価診断の原則、手続き、情報収集の方法)			30分程度の予習・復習を行う		
	4	評価診断(認知行動面、環境面の情報収集言語面の評価)			30分程度の予習・復習を行う		
	5	言語面の評価(言語理解・表出、コミュニケーション、スピーチ領域)			340分程度の予習・復習を行う		
	6	発達面の評価(遠城寺式乳幼児分析的発達検査)			30分程度の予習・復習を行う		
	7	言語面の評価(LCスケール)検査の特徴と手応え課題			30分程度の予習・復習を行う		
	8	言語面の評価(LCスケール)手応え課題からの展開方法			30分程度の予習・復習を行う		
	9	言語面の評価(FOSCOM)			30分程度の予習・復習を行う		
	10	言語面の評価(国リハ式<S-S>法言語発達遅滞検査)概論			30分程度の予習・復習を行う		
	11	言語面の評価(国リハ式<S-S>法言語発達遅滞検査)各論			30分程度の予習・復習を行う		
	12	適応行動尺度(Vineland-II)			30分程度の予習・復習を行う		
	13	言語面の評価(J.COSS日本語理解テスト)			30分程度の予習・復習を行う		
	14	言語面の評価(小学生の読み書きスクリーニング検査)			30分程度の予習・復習を行う		
	15	言語面の評価(絵画語彙発達検査)			30分程度の予習・復習を行う		
	16	言語面の評価(質問-応答関係検査)概論			30分程度の予習・復習を行う		
	17	言語面の評価(質問-応答関係検査)結果の見方			30分程度の予習・復習を行う		
	18	言語面の評価(ことばのテスト絵本)			30分程度の予習・復習を行う		
	19	新版K式発達検査 概要・実施手順			30分程度の予習・復習を行う		
	20	新版K式発達検査 実施手順・結果のまとめ			31分程度の予習・復習を行う		
	21	ケーススタディ(模擬症例の情報収集、評価方法の立案・評価演習)			検査練習(30分)		
	22	ケーススタディ(模擬症例の評価結果のまとめ)			結果のまとめ作成(30分)		
	23	まとめ(国家試験対策)			講座全体を振り返り、試験対策を行う(60分)		
評価方法	(1)小テストを複数回実施する。(2)レポート作成を複数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	小テスト・レポート	○	○				25%
レポート	○	○		○		25%	
履修上の注意							

科目名	ASD・ADHDの展開						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	三田 智巳・永江 信吾		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	施設にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	ASD・ADHDに対する言語聴覚療法の評価診断、および言語治療(指導・支援)に関する知識、技能、態度を習得する。						
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				ASD・ADHD児に対する言語治療における言語聴覚士の役割を説明できる	
	○	○		○		ASD・ADHD児に対し、言語聴覚療法の評価診断の基本概念と方法を説明し、模擬的に実施できる	
テキスト・教材 参考図書	藤田郁代/編 標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第2版(医学書院)2017年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ASD児の評価診断と言語治療(指導・支援)とは			30分程度の予習・復習を行う		
	2	評価診断(評価診断の原則、手続き、情報収集の方法)			30分程度の予習・復習を行う		
	3	評価診断(認知行動面、環境面の情報収集)			30分程度の予習・復習を行う		
	4	ASDの評価診断支援の概要			30分程度の予習・復習を行う		
	5	M-CHAT			340分程度の予習・復習を行う		
	6	ADI-R、ADOS2、PARS-TR			30分程度の予習・復習を行う		
	7	PEP-3、CARS自閉症評定尺度			30分程度の予習・復習を行う		
	8	ASD単元テストと振り返り			30分程度の予習・復習を行う		
	9	ADHDの評価診断支援の概要			30分程度の予習・復習を行う		
	10	行動療法、感覚プロフィール			30分程度の予習・復習を行う		
	11	ADHD-TR、ADHDの薬物療法			30分程度の予習・復習を行う		
	12	ASD・ADHD・LD・DCDなどの合併例について			30分程度の予習・復習を行う		
	13	ADHD単元テストと振り返り			30分程度の予習・復習を行う		
	14	ケーススタディ(模擬症例)			30分程度の予習・復習を行う		
	15	まとめ(定期試験と国家試験対策)			30分程度の予習・復習を行う		
評価方法	(1)定期試験を実施する。(2)単元テストを2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	単元テスト	○	○				50%
履修上の注意							

科目名	機能性構音障害の理解と展開							
科目名(英)	learning and developing functional dysarthria							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	今村 亜子			
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	小児施設に言語聴覚士として勤務			
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年							
授業概要	機能性構音障害の基礎知識、構音検査の実施と分析方法を習得する。系統的構音訓練の枠組みを知り、立案。実施。計画を実践できる力を身につける。関連分野の理論的背景、エビデンスに基づく臨床思考を身につける							
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				音声学の知識を構音障害臨床との関連について説明できる		
	○	○				機能性構音障害の定義とその症状について説明することができる		
	○	○	○			機能性構音障害に関わる検査を選択することができ遂行することができる		
	○	○	○			訓練プログラムの概要を理解し説明することができる		
○	○	○	○			それぞれの訓練過程に必要なPLAN・DO・SEEの過程を実施することができる		
テキスト・教材 参考図書	協同医書出版社「音声表記・音素表記 記号の使い方ハンドブック」・医学書院 標準言語聴覚障害学「発声発語障害学」第3版 参考文献:協同医書出版社「言語聴覚療法臨床マニュアル」第3版 学苑社「わかりやすい側音化構音と口蓋化構音の評価と指導法:舌運動訓練活用法」							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	音声学・音韻論と臨床の接点				指定教科書と過去の音声学の教科書および配布プリントを使用し復習しておく		
	2	発達途上の小児の構音障害				教科書、参考書、配布プリントを使用し復習しておく		
	3	構音類似運動検査(演習)				自主演習しておく		
	4	構音検査、結果のまとめと分析(演習)				自主演習および配布プリントを使用し復習しておく		
	5	系統的構音訓練の枠組み				自主演習および配布プリントを使用し復習しておく		
	6	構音訓練の立案・実施・評価(単音～単音節レベル)(演習)				自主演習および配布プリントを使用し復習しておく		
	7	構音訓練の立案・実施・評価(連続音節レベル①教材の留意点)(演習)				自主演習および配布プリントを使用し復習しておく		
	8	構音訓練の立案・実施・評価(連続音節レベル②実施の留意点)(演習)				自主演習および配布プリントを使用し復習しておく		
	9	構音訓練の立案・実施・評価(単語レベル)(演習)				自習演習および配布プリントを使用し復習しておく		
	10	構音訓練の立案・実施・評価(句・短文レベル)(演習)				自主演習および配布プリントを使用し復習しておく		
	11	構音訓練の立案・実施・評価(会話レベル)(演習)				自習演習および配布プリントを使用し復習しておく		
	12	ケースのまとめ(発表)				自主演習および配布プリントを使用し復習しておく		
	13	特異な構音操作による構音の誤りへの対応				難治性の構音の誤りに対するアプローチを学ぶ		
	14	音声知覚・音韻処理について(内的モニタリングの形成)				カテゴリー知覚の重要性を理解し、音韻処理に着目したアプローチを学ぶ。		
15	まとめ				配布プリントを使用し復習しておく			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)模擬ケースに対するレポートを作成する。(3)模擬ケースに対するアプローチについて発表する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	○	○				60%	
	小テスト							
	宿題・レポート	○	○		○		10%	
発表・作品	○	○	○	○		30%		
履修上の注意								

科目名	運動障害性構音障害の理解						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	潮崎 桃子		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	構音運動のメカニズムについて理解し説明できる。構音障害の特徴について理解し、運動障害性構音障害の診断と分類ができる。評価実習に向けて言語聴覚士に必要なふるまいやコミュニケーション態度、学習能力の基礎を築き、個人の課題を具体的に見つけ具体的に行動することができる。						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技: △	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				運動障害性構音障害の定義、発生機序、病態について説明できる。	
	○	○	○			運動障害性構音障害の評価の流れについて説明できる	
	○	○	○			グループ学習を通して、他者を尊重し協力しながら課題に取り組むことができる。	
				○		言語聴覚士としての役割を自覚し、自分の言動に責任をもつことができる。	
			○	○		自ら課題を見つけ具体的に行動することで、問題解決につなげることができる。	
テキスト・教材 参考図書	ディサースリア臨床標準テキスト 西尾正輝 著/医歯薬出版株式会社 運動障害性構音障害学 廣瀬肇 著/医歯薬出版株式会社 言語聴覚士ドリルプラス運動障害性構音障害 大塚裕一 編集/株式会社 診断と治療社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	コミュニケーション障害と運動障害性構音障害/定義・障害構造			授業まともをA4一枚で作成、提出		
	2	運動系の基礎理解(発声発語器官の構造および筋肉の働き)			授業まともをA4一枚で作成、提出		
	3	運動系の基礎理解(運動系の概要、錐体路系、錐体外路系)			授業まともをA4一枚で作成、提出		
	4	運動系の基礎理解(小脳系・下位運動ニューロン・筋系)			授業まともをA4一枚で作成、提出 ドリルプラスを解く		
	5	運動系の障害(錐体路系、錐体外路系)			授業まともをA4一枚で作成、提出		
	6	運動系の障害(小脳系、下位運動ニューロン)			授業まともをA4一枚で作成、提出		
	7	発声発語器官の運動機能障害、聴覚的な発話特徴			授業まともをA4一枚で作成、提出 ドリルプラスを解く		
	8	タイプごとの病態特徴と重症度(弛緩性、痙性、UUMN)			授業まともをA4一枚で作成、提出		
	9	タイプごとの病態特徴と重症度(運動低下性、運動過多性)			授業まともをA4一枚で作成、提出		
	10	タイプごとの病態特徴と重症度(失調性、混合性)			授業まともをA4一枚で作成、提出		
	11	各運動障害性構音障害の特徴のまとめ・発表			今までのまとめを復習 ドリルプラスを解く		
	12	運動障害性構音障害の評価(臨床の流れ、鑑別診断、検査)			授業まともをA4一枚で作成、提出		
	13	問診・観察を通しての理解(情報収集と問題点抽出、ICF)			授業まともをA4一枚で作成、提出		
	14	失語症補助テスト			ペアで30分以上実技練習		
15	失語症補助テスト、まとめ			ペアで30分以上実技練習 まとめの復習、ドリルプラスを解く			
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	小テスト	○	○				20%
	宿題・レポート	○	○		○		10%
	授業内演習・発表	○	○	○	○		20%
履修上の注意							

科目名	摂食嚥下障害の理解						
科目名(英)	Understanding dysphagia						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	八木 智大		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 2年						
授業概要	摂食嚥下障害について基本的な概念を学ぶ。また、摂食嚥下障害によって引き起こされる合併症や関連障害が私たちの生活に与える影響について具体的に想像できるだけの知識を獲得する。嚥下障害や関連障害に対する訓練や支援方法を立案する為に、病態の評価方法や基本的技法を説明できるようになる。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				摂食嚥下に対するリハビリテーションの目的を説明することができる。	
	○	○				摂食嚥下に関与する神経、筋を含む構造を説明できる。	
	○	○				健常人における摂食嚥下モデルを説明することができる。	
	○		○			摂食嚥下障害に対する基本的な評価技法をクラスメートに実施することができる。	
	○		○			自らの考えをグループワークや個別課題の中で表現することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:藤島一郎ほか「脳卒中の摂食嚥下障害 第3版 web動画付き」医歯薬出版株式会社、2017 聖隷嚥下チーム「嚥下障害ポケットマニュアル 第3版」医歯薬出版株式会社、2018						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	嚥下障害総論～オリエンテーションと嚥下器官を描けるようになる～				教科書の該当部分を復習する。資料を基に嚥下器官の構造を図示できるようになっておく(1時間)	
	2	嚥下のメカニズムを学ぶ ～嚥下モデルについて～				教科書の該当部分を復習する。(30分)	
	3	嚥下のメカニズムを学ぶ ～嚥下に関わる筋肉について～				教科書の該当部分を復習する。(30分)	
	4	嚥下のメカニズムを学ぶ ～嚥下に関わる神経について～				教科書の該当部分を復習する。(30分)	
	5	摂食嚥下障害の原因と病態を学び列挙することができる。				教科書の該当部分を復習する。(30分)	
	6	脳卒中による嚥下障害を学び病態の特徴を説明できるようになる				教科書の該当部分を復習する。(30分)	
	7	摂食嚥下障害に影響する関連障害を説明できる。				教科書の該当部分を復習する。(30分)	
	8	前半テストとその解説				テストの内容を復習し後半の講義に向け準備を行なう。(30分)	
	9	摂食嚥下障害の評価 ～観察と簡易評価～				教科書の該当部分を復習する(30分)	
	10	摂食嚥下障害の評価 ～精密検査～				教科書の該当部分を復習する(30分)	
	11	検査結果のデータから嚥下障害を評価する				教科書の該当部分を復習し、評価記録を読むようになる(1時間)	
	12	嚥下のスクリーニング評価を体験してみよう				教科書の該当部分を復習し、クラスメートと模擬演習を行う(1時間)	
	13	摂食嚥下障害に影響する心理・社会的問題を説明できる。				教科書の該当部分を復習する(30分)	
	14	模擬症例の情報をまとめ嚥下障害を評価することができる。				教科書の該当部分を復習する(30分)	
15	後半テスト国家試験問題				前期授業の内容を振り返り後期授業に備える。		
評価方法	(1)授業毎に小テストを10回実施する。(2)前半テストと後半テスト(筆記)を実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。(4)理解確認シートより問題解決能力を評価する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				30%
	前半テスト	◎	◎		◎		30%
	後半テスト	◎	◎		◎		30%
	小テスト	○	○		○		5%
理解確認シート	○	○	○	○		5%	
履修上の注意							

科目名	成人聴覚障害の診断						
科目名(英)	Diagnosis of Hearing Impairment in Adults						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	竹松 知紀		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	補聴器メーカーにて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	聴覚障害に対する言語聴覚療法の評価診断および言語治療に関する知識・技能・態度を修得する。						
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					成人聴覚障害の評価について概説することができる	
	○					補聴器、人工内耳の適応例を挙げることができる	
			○			語音聴力検査を模擬的に実施できる	
	○					模擬ケースカンファレンスにて模擬的に報告することができる	
○					聴覚情報補償について説明できる		
テキスト・教材 参考図書	教科書:藤田郁代(監)「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版」医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	成人聴覚障害の評価概論			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	2	面接による評価			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	3	聴力検査の選択			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	4	純音・語音聴力検査 実習			十分に練習して実技試験にのぞんでください		
	5	語音聴力検査 実技試験と単元テスト			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	6	コミュニケーションおよび包括的聴力の評価			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	7	心理社会的側面の評価			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	8	聴覚補償機器			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	9	補聴器・人工内耳の適応と評価			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	10	中枢性聴覚障害			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	11	機能性聴覚障害 と単元テスト			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	12	情報補償			評価サマリを作成する(1時間)		
	13	評価サマリの作成			治療計画を作成する(1時間)		
	14	統合と分析、治療計画の作成			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
15	症例報告会 ルーブリック評価			講座全体を振り返り、繰り返し学習する(1時間)			
評価方法	(1)単元テストを2回実施する。(2)実技試験を1回実施する。(3)症例報告をルーブリックにて評価する。(4)定期試験を実施する。 以下を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	単元テスト×2	○	○				30%
	宿題・レポート	○			○		10%
	実技試験		○	○			20%
	症例報告		○		○		10%
定期試験	○	○				30%	
履修上の注意							

科目名	小児聴覚障害の支援						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	城丸 みさと		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	言語聴覚士として施設に勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	聴覚障害に対する言語聴覚療法の評価診断、言語治療に関する知識・技術・態度を修得する。						
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				聴覚障害と関連障害における言語聴覚療法の評価診断の基本概念と方法を説明できる。	
			○	○		聴覚障害と関連障害における言語聴覚療法の評価診断を模擬的に実施できる。	
	○	○				聴覚障害の言語治療の基本概念と方法を説明できる。	
			○	○		聴覚障害の言語治療の基本概念と方法を模擬的に実施できる。	
テキスト・教材 参考図書	標準言語聴覚障害 聴覚障害学第二版 医学書院 2015						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	聴力検査の選択			内容をA4用紙一枚にまとめること		
	2	新生児聴覚スクリーニング			内容をA4用紙一枚にまとめ、実技練習を行い、観察の不明点を上げておくこと。		
	3	BOAとCOR			内容をA4用紙一枚にまとめ、実技練習を行い、観察の不明点を上げておくこと。		
	4	ピープショウ検査と遊戯聴力検査			内容をA4用紙一枚にまとめ、実技練習を行い、観察の不明点を上げておくこと。		
	5	検査結果とその他の情報の統合と解釈			内容をまとめ、ケーススタディの準備を進めること		
	6	聴覚補償機器の活用			内容をA4用紙一枚にまとめること		
	7	聴能訓練			内容をA4用紙一枚にまとめること		
	8	聴覚障害の支援の原則			指導・訓練・支援の原則とプロセスをまとめる		
	9	言語治療計画立案			ケーススタディ準備をしておく		
	10	ケーススタディ計画			他のグループの発表内容をまとめる		
	11	言語治療教材作成			ケーススタディ準備をしておく		
	12	ケーススタディ支援			他のグループの発表内容をまとめる		
	13	言語治療記録			ケーススタディ準備をしておく		
	14	ケーススタディ継続			他のグループの発表内容をまとめる		
15	国家試験対策			国家試験過去問題、聴覚障害分野の解説を熟読し、理解できるところとできない所を明確にしておく			
評価方法	(1)レポートを数回実施する。 (2)定期試験(筆記)を実施する。 以下を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				70%
	小テスト						
	宿題・レポート			○	○		30%
発表・作品							
履修上の注意	聴覚系の他の講座資料を振り返りながら受講してもらいたい。 国家試験過去問題から関連問題を探し、開講期間に全問理解すること。						

科目名	画像診断学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	15時間	担当者	鈴木 睦		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	脳画像の読影のための基本的知識と共に、臨床で応用できるように脳の各領域の機能やその領域の損傷に伴う障害についても説明する。また、国家試験問題の解説を行う。						
授業形態	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				画像読影のための脳解剖が説明できる。	
	○	○				脳の各領域の働きとしくみ、障害について分類することができる。	
	○	○				国家試験問題の解説を説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	三輪書店、 靱間 剛 . 国家試験にも臨床にも役立つ!リハビリPT・OT・ST・Dr.のための脳画像の新しい勉強本.						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	脳解剖からみた脳画像 -リハへの役立て方 前頭葉-				授業内で使用する配布資料PDFをタブレットやPCにダウンロードし授業中に確認できるようにしておく。	
	2	CT・MRI基本・国家試験 -神経生理・画像検査、脳血管疾患について-				授業内で使用する配布資料PDFをタブレットやPCにダウンロードし授業中に確認できるようにしておく。	
	3	脳解剖からみた脳画像 -頭頂葉-				授業内で使用する配布資料PDFをタブレットやPCにダウンロードし授業中に確認できるようにしておく。	
	4	脳解剖からみた脳画像 -脳の言語領域 (1)失名詞失語、フローカ失語 等-				授業内で使用する配布資料PDFをタブレットやPCにダウンロードし授業中に確認できるようにしておく。	
	5	脳解剖からみた脳画像 -脳の言語領域 (2)ウェルニッケ失語、伝導失語 等-				授業内で使用する配布資料PDFをタブレットやPCにダウンロードし授業中に確認できるようにしておく。	
	6	脳解剖からみた脳画像 -運動・感覚神経、大脳基底核、その他-				授業内で使用する配布資料PDFをタブレットやPCにダウンロードし授業中に確認できるようにしておく。	
	7	脳解剖からみた脳画像 -脳血管、視床、辺縁系、その他-				授業内で使用する配布資料PDFをタブレットやPCにダウンロードし授業中に確認できるようにしておく。	
	8	CT・MRI応用・国家試験問題・症例・演習・まとめ				授業内で使用する配布資料PDFをタブレットやPCにダウンロードし授業中に確認できるようにしておく。演習資料を授業前に配布する。	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
履修上の注意	授業内で使用する資料は白黒で配布されるが画像診断の特性上カラーで確認する必要がある。その為、配布資料の色付きのPDFデータを各自でタブレットやパソコンなどにダウンロードし、その資料を見ながら授業に臨む。						